

「今よりもよくする」改善へ

～株式会社ミツバでの学びの記録～

mitsuba

令和6年度 長期社会体験研修員 鳥居 紘子

【研修先企業：株式会社ミツバ】

研修先企業について

企業概要

MITSUBA 株式会社 ミツバ

所在地 : 群馬県桐生市広沢町 1-2681
設立 : 1946年3月8日
代表者 : 代表取締役社長 日野 貞実
資本金 : 50億円
従業員数 : 3,205名
事業内容 : 四輪・二輪自動車用電装品（ワイパーシステム・スターターモーター・パワーウィンドウモーター・パワーステアリングモーター・パワースライドドアドライブシステムなど）の開発・製造・販売



HPは
こちら
から！

MITSUBA

基本理念

ミツバは、ミツバを愛しさをえる人々とともに、
社会と環境に調和した技術の創造を通して、
世界の人々に喜びと安心を提供する。

経営理念

- 一、選ばれる企業をめざし、ミツバブランドを世界に拡げる。
- 一、技術をドライビングフォースとし、市場創造に挑戦する。
- 一、人を活かし、人に生かされる企業となる。

行動理念

夢 挑戦 スピード

年間研修計画

4月	・新人研修（大卒新人研修の聴講、補佐など）
5月	・新人研修（高卒新人の配属ガイダンス、技能五輪選抜など）
6月	・生産実習（新里工場にて生産現場体験）
7月	・新人研修、採用実務（高卒新人の配属補佐など）
8月	・新人研修、採用実務（高校生向け工場見学参加及び補佐など）
9月	・新人研修、キャリア研修、採用実務（採用面接業務補佐など）
10月	・新人研修、キャリア教育
11月	・階層別教育、採用実務
12月	・階層別教育、採用実務
1月	・階層別教育、採用実務
2月	・階層別教育、採用実務 ・階層別教育、新卒受入準備等
学校教育との 関わり等	・採用実務：企業と学校のマッチングの検討、採用面接、新人受入等 ・新人研修：企業が求める人物像、知識の習得 ・階層別研修：入社から中堅・管理職に向けたスキルアップ研修 ・キャリア教育：セカンドキャリア、定年に向けた研修 ・D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）の各種取組み現場視察 （障がい者雇用、技能実習生受入&活用、女性活躍、健康経営など）

主な研修内容(4月～6月)



4月 集合研修

4月1日、入社式に参加した。翌日から、1か月間の充実した研修プログラムが始まった。4月の集合研修に参加した経験から、目標をもつことの重要性を再認識した。また、「待つこと」や「気付かせること」といった、主体性を育むために必要なことにも改めて気付くことができた。



5月 ミツバを知る

ミツバの研究開発センターや富岡工場の見学、関連会社の(株)モミモや(株)アムコの見学、障がい者雇用委員会や技能実習生の日本語スピーチコンテストへの出席など、「製品を作る」以外のミツバの取組をたくさん知る機会になった。ミツバの社員を大切にする社風を、各現場で強く感じた。



6月 生産実習

新里工場製造5課にて、パワーウィンドモーターの生産ラインで1か月間の実習を行った。同ラインには研究協力校の卒業生もいて、生き生きと仕事に取り組む姿に感銘を受けた。「笑顔で働ける工場づくり」という工場のコンセプトの下、働きやすい環境が整っていると感じた。



振り返り

3か月間の研修を通して、特に印象深かったのは生産実習でした。実際に製品が完成するまでの工程を目の当たりにすることができ、特に機械検査後の最終的な目視検査では、人間の感覚と判断力の重要性を改めて実感した。AIやロボットの進化が著しい中でも、人間の役割は大きいと感じた。

主な研修内容(7月～9月)



7月 各種研修

高卒総合職の配属後研修から始まり、初等QC教育などの多岐にわたる研修プログラムを聴講した。キャリアステージに合わせたきめ細かな研修内容に感銘を受けた。研修を通して、具体的な行動計画の重要性を学び、日々の業務で目標意識をもち続けることの難しさと大切さを実感した。



8月 オープンカンパニー

ミツバと両毛システムズ合同のオープンカンパニーの運営に携わった。会社紹介、若手社員との交流会、新入社員のビジネスプラン発表などを通して、来場者は企業での働き方や取り組みの一端を知ることができ、高校生にとってもキャリアを考えるよいきっかけになると感じた。



9月 採用活動

9月16日から始まった高校生の採用業務に携わった。この業務では、企業の採用活動がどのように行われているかを知ることができた。企業では、大卒や高卒、中途採用などと、多岐にわたる採用業務を少人数で行っていることに驚いた。普段と逆の立場を体験できたことは貴重な経験となった。



振り返り

オープンカンパニーにおいては、想定した人数を確保することが難しかった。企業側の視点に立つことで、これまでの自分自身の対応を客観的に見直す機会となった。この経験を通して、自分がもっていなかった新たな視点をもてるようになったことは大きな収穫となった。

主な研修内容(10月～12月)



10月 研修業務体験

大卒配属前研修の準備業務では、研修実施まで他部署や各工場への研修依頼、会議通知、資料準備など多岐にわたる実務が必要だと分かった。特に、他の研修と並行して業務を進める中で、社員の方々の綿密なスケジュール管理を目の当たりにし、その重要性を改めて認識した。



11月 技能実習生との交流

10月から始まった技能実習生に向けた日本語と日本文化の講義も2回目となった。受講者の日本語能力や文化理解度に差がある中、いかに興味をもってもらえるか試行錯誤しながら改善した結果、受講者の反応も良く、よい交流がもて、日本に興味をもってもらえたと感じられた。



12月 採用業務

高卒内定者フォロー業務を担当し、提出書類の確認などの、細やかな対応の必要性を認識した。全国6か所の生産拠点との連携・調整業務も多く、外部からは見えにくい苦労を知ることができた。採用業務においては、内定後も多岐にわたる業務が存在することを改めて認識した。



振り返り

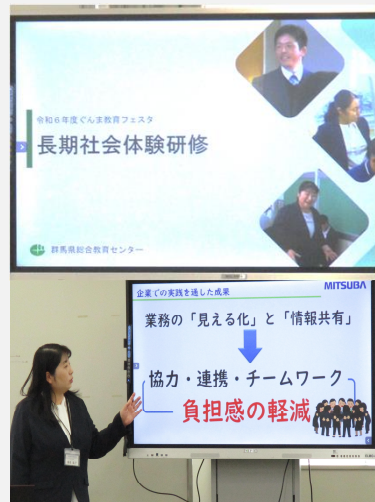
10月以降、研修は採用業務中心となった。高卒採用は9月に試験が行われるが、入社までのフォロー業務が多く、内定者が安心して入社できるように、丁寧なサポートを行っていることが分かった。また、技能実習生との交流では、興味や関心をもつことが、主体的な学びを促進すると実感した。

主な研修内容(1月～2月)



1月 オートモティブワールド

東京ビッグサイトで開催された「オートモティブワールド-クルマの先端技術展-」を視察した。国内外の多くの企業が出展し、最先端の技術を実際に見ることができた。日本のモノづくりを支える企業の多さや、多種多様な仕事ビジネスにつながっていることを実感した。



2月 1年間の実践発表

本研修での学びや気づき、授業実践での成果、課題などを「ぐんま教育フェスタ」で発表した。多くの来場者に報告を聴いていただき、研修での学びを再認識するよい機会となった。また、特別講演や長期研修員の研究の発表も聞くことができ、これからの授業や生徒との関わりの参考になった。

～1年間のまとめ～



企業研修を通して、社会に出ても学び続ける姿勢や、役割に応じたコミュニケーションスキル向上のための研修は学校教育でも重要だと実感した。特に、チームで情報共有し協力する姿勢や、常に改善を意識する姿勢は学校現場でも取り入れたいと感じた。しかし、現状では生徒がキャリアについて深く考え、行動に移すための時間が不足していると感じている。今後は、企業との連携を強化し生徒の経験や体験を充実させるとともに、研修で得た学びを生かした授業実践に努め、生徒の主体的なキャリア形成を支援していきたいと考えている。そのためにも、研修で学んだことを生徒だけでなく、先生方とも共有し、「今よりもよくする」という視点を大切にしながら、学校全体のキャリア教育の質を高めていけるようにしていきたい。



センター研修と授業実践

センター研修

5月 キャリア教育研修

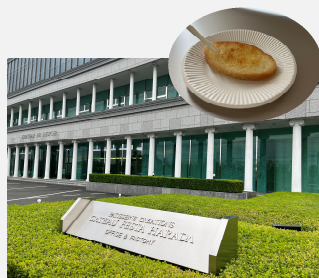
「学校組織マネジメント」講義を受講し、研修員3名と学校戦略マップを作成した。

これまで学校組織マネジメントの視点が不足していたため、今回の研修を機に学びを深めていきたい。



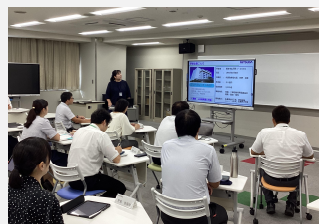
9月 研修先以外の企業訪問研修

高崎市にある株式会社原田に訪問した。群馬県の人気銘菓であるラスクのおふれる「こだわり」を知ることができた。充実した研修制度やライフワークバランスを大切にされた働き方など、貴重なお話を聞くことができた。



9月 中間報告会

長期研修員に向け、これまでの研修での体験や、授業実践の構想などを発表した。私たちの報告に真剣に耳を傾けてもらい、質問もあった。自分になかった視点など、質問を受ける中で気付いたことがあった。



研究協力校での授業実践

対象：第2学年（普通科）

特別活動

「自らの課題に目を向け、よりよい進路選択を目指そう！」

ねらい

自分が現在抱えている進路選択についての課題を明確にするための活動を通して、課題を明確にするための手法を知り、学校生活における課題に目を向ける意識や、解決のための方策を考察する力を育む。

授業の流れ・様子

導入	・研修先企業の紹介
展開①	・特性要因図の作成方法を習得する
展開②	・特性要因図を用いて、進路選択の要因を明確する ・個人の特性要因図を作成し、解決案を考える。 ・テキストマイニングツールを使い、解決案を共有する。
まとめ	・本時の振り返り



授業の進め方の説明



要因の洗い出しのワーク



個人の特性要因図の作成

振り返り

- ・生徒は自身の進路選択の新たな気付きを得ることができた。
- ・「気付き」を「考え」や「行動」に移すことが次の課題である。